

大動脈のバイパスを災害に強く

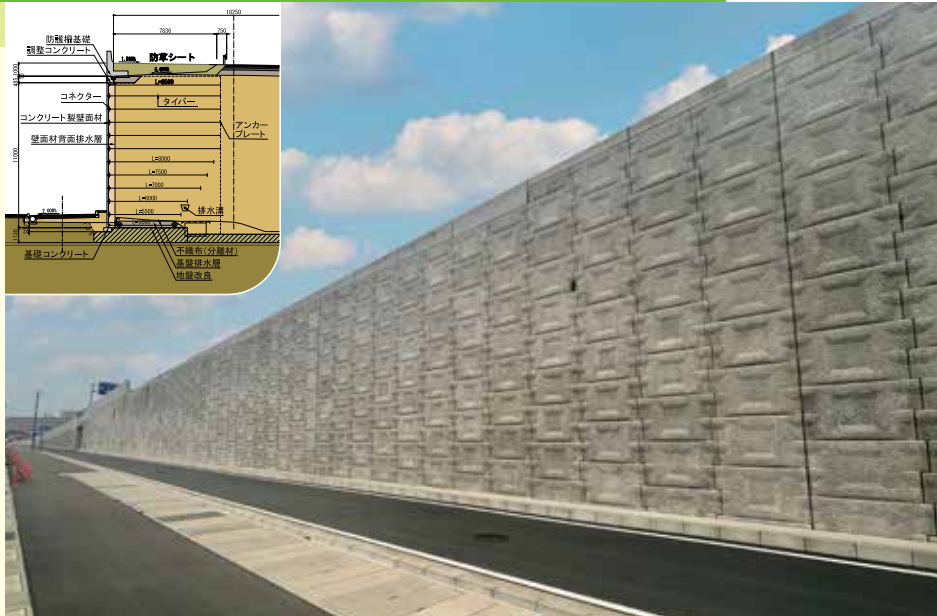
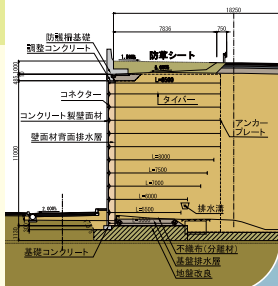
三重県
中勢バイパス

多数アンカー式補強土壁工法

国道23号は、中京地域を横断的に結ぶ幹線道路で、三重県内においても産業・観光における南北の大動脈として、また地域の生活道路として重要な役割を果たしています。しかし同道は、多方面からの交通が集中することにより、主要交差点を中心に深刻な渋滞が慢性化していました。

そこで渋滞解消のために計画されたのが国道23号中勢バイパス。三重県鈴鹿市から同松阪市に至る延長33.8kmのバイパス道路です。平成5年の一部開通を皮切りに段階的に整備が進められ、令和5年11月19日ようやく全線が開通。これによって周辺地域の交通渋滞が緩和し、より多い交通量を受け入れられるようになりました。

三重県沿海部は伊勢湾台風を例に挙げるまでもなく度々の水害に悩まされてきた地域のため、同道のルートは山間部、沿海部それぞれから距



離を取り想定される災害を避けるよう考慮され、加えて盛土によるかさ上げもなされています。

この道路整備計画の最終区間となった鈴鹿（安塚）工区では、ほぼ全面的にバイパスに沿って民地と側道が迫っていることから「多数アン

カー式補強土壁工法」による垂直壁の採用で、安定した盛土を実現しています。

多数アンカー式補強土壁工法は、開発以来四半世紀以上を経てその間各地の震災に遭遇していますが、安定性の高い工法であることが確認されています。



工事概要

施主：国土交通省中部地方整備局
三重河川国道事務所
工事名：令和2年度23号玉垣地区道路建設工事ほか
施工会社：丸亀産業株式会社ほか
商品名：多数アンカー式補強土壁工法
8,648m²（複数工区合計）

お国自慢

電被害

北関東支店 林 宏繁

水の粒の直径五ミリ未満を「霰」、五ミリ以上を「雹」と呼びます。群馬県は高山と丘陵が近接する地形から雹を降らす積乱雲が発生しやすい地域とされています。一昨年も最大五センチ径という雹（落下速度で時速百キロ超）が降り、県内各地で家屋や農作物など様々な被害が報告されました。

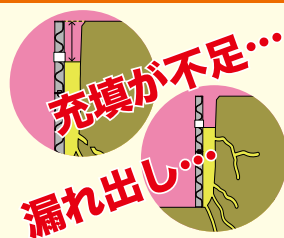
支店のあるここ高崎市では、賃貸住宅一戸に対して駐車場二台が割り当てられるほど一人一台が当たり前。そんな地域に雹が降り、中古車販売店などは売り物の車が軒並み穴だらけの悲惨な状況でした。

私の納車六か月の愛車も同様で、屋根からボンネット、ドア上部などポコポコくぼみが多数。しかし修理をするにも地域全体数万台が同様に被災しているため見積りの予約からして一ヶ月以上先となり、ディーラーとは別に保険会社に査定をして貰うのにも二ヶ月以上かかりました。加えて修理にしても前年の電被害分も終わっていないらしく三〜四年待ちといわれる始末でした。

こうしたことから駐車場は屋根付き推奨ですが、それもポリカーボネート板などではなく鋼板にしておかないと突き破られる危険性が大。群馬県は電対策という意外な出費がかさみます。

岡三リピック
商品群

道路・盛土 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッドEX パラリンク フラットパネル RRR工法 EDO-EPS工法
ダイブラハウエル管 法面・防災 多機能フィルター ミニアンカーDO PDR工法 サビレス100
維持・管理 ARISライナー工法 SWライナー工法 RCGインナーシリカ Tn-p工法 ローマットHDB
鉄鋼建材 ライナープレート コルゲートパイプ 景観・環境 ロッキーステージ 斜面いどり工法 フォトリックアート

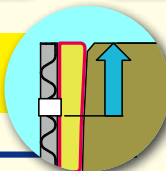


ライナープレート背面の隙間を埋める

ライナーバック

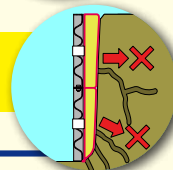
特長1 注入口を越えて充填可

ライナープレートの注入口・連結部に簡単に設置できます。



特長2 充填剤の漏れ出しロスがない

ライナーバックの使用により、充填箇所からの漏出を防止します。



特長3 はがしやすく撤去が容易

ライナープレートに充填材が殆どこびりつかず、撤去が楽です。



特長4 特別な工具を使わず簡単設置

ライナープレートの注入口・連結部に簡単に設置できます。



従来、ライナープレート端部と地山の隙間は、小型土のう等で塞いで充填材を充填していましたが、隙間から充填材が漏れたり、充填が確実に出来ないことがありました。
これを解決するのが充填袋「ライナーバック」。伸びしろのある構造により空隙の充填が確実に行えて、作業時間の短縮にもつながります。
ライナープレート工事では是非ご活用ください。

施工手順



製品姿



ホースバンド



注入口取付



固定用シート取付



ライナーバックセット完了



充填完了

それが何故か彼の死の直後に、摂氏
は氷点を0度にする改定された。凍
る方向に増えていく数え方はちよつと
変だと、周囲の誰もが思っていたのだ
ろう。しかしそれ故に、冬になると日
常的にマイナス表記を目にするように
なってしまったのだ。

マイナスの件はなるほどと思う面も
あるが、実はそもそも摂氏を提唱した
スウェーデンの学者A・セルシウスの
アイデアにもマイナスはなかった。
沸点を0度、氷点を100度とする今と
真逆のカウント方法が採られ、例えば
今の「マイナス10℃」なら「110℃」と
表記するなど、華氏同様日常でマイナ
スが生じないことになっていた。

華氏は日本では全くなじみがないが、
換算すると摂氏0℃が華氏32°F、同じ
く100℃が212°Fとなる。つまり100対180の
割合で目盛りがより細かく、加えて日
常的な生活環境においてマイナスで表
記することが稀になるためそれ独自の
合理性があるのだという。

世界は重さや長さなど様々な単位に
おいてまだまだ統一化が進んでいない。
そうした単位のひとつが温度である。
日本では℃(摂氏)セルシウス度)
が使われるが、北米などでは°F(華氏
)ファhrenハイト度)が非常に根強
く残っている。

℃と°F

徒然月記

記：編集T



岡三リビング株式会社

東京都港区港南1-8-27 日新ビル ☎03-5782-9080



札幌・盛岡・仙台・高崎・東京・新潟・金沢・長野
静岡・名古屋・大阪・米子・広島・高松・松山・福岡
鹿児島・沖縄リビング・岡三リビングベトナム